

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2019.7.1

vol. 41

赤谷の森でわかったこと

「ヤマビルの分布と被害対策について」

群馬県林業試験場 主席研究員

坂庭 浩之

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

群馬県立自然史博物館 主幹 大森 威宏

● 「いきもの村」でサポートしよう！

2019「赤谷の日」活動予定

赤谷森林ふれあい推進センター 玉井 宏

(夏のムタコ沢 撮影：赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ 『夏の風物詩』 (写真：赤谷森林ふれあい推進センター)



エゾアジサイ



クマイチゴの実



キツリフネ



コクワガタ



アキアカネ

赤谷の森で
わかつたこと



ヤマビル 被害対策について

群馬県林業試験場
主席研究員
坂庭 浩之



「赤谷の森ではヤマビルが増えた」といった声が聞かれます。群馬県全体でもヤマビルの生息分布は広がっています。今回はヤマビル対策について紹介します。

群馬県内のヤマビルの分布の変化

県林業試験場ではヤマビルの分布の変化について調査を行いました。2009年(平成21年)と2016年(平成28年)を比較すると、生息範囲が1.3倍の面積に増加していることが

わかりました。調査は、現地に詳しい鳥獣保護管理員、自然保護指導員、自然保護団体などに協力してもらいました。ひとつのメッシュは5×5kmでそのメッシュに生息情報が単発又は複数でも限局している場合を「狭範囲分布」、メッシュ内に広く分布している場合を「広範囲分布」としています。赤谷プロジェクトエリア内では分布が確実に広がっていることが判読できます。

被害に遭わないために

ヤマビルが生息する場所では吸血の不安から自然をゆつくり楽しめません。そこで、おすすめするのが「ディート30%入り虫除けスプレー」です。これは蚊やマダニに喰われないために有効な成分「ディート」を高濃度に含んだもので、2016年から厚生労働省が承認を始めた新しいタイプの虫除けスプレーです。



この成分はヤマビルにも有効で、忌避効果、殺ヒル効果が確認されました。しかし、従来から販売されている虫除けスプレーは「ディート」成分が8〜12%で、ヤマビルの忌避効果、殺ヒル効果とも非常に低く、効果はないと考えてください。

狭い範囲を管理する

家の庭など狭い敷地からヤマビルを排除したい場合、ヤマビル駆除剤のマリックスター(住化グリーン株)が有

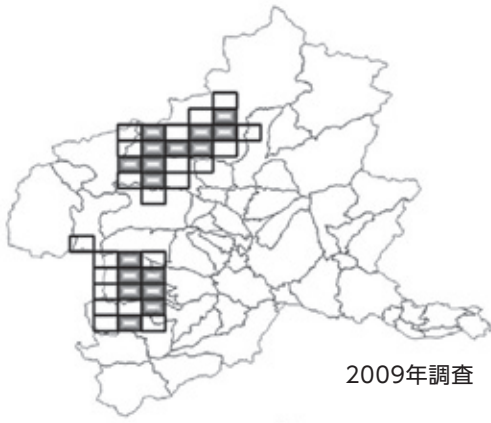
効です。ヤマビルに薬液が直接かかるようにしっかりと散布することでヤマビルを確実に殺し、1〜2年後でもヤマビルの生息数は駆除前の10%以下(0.01匹/m²)でヤマビルがほとんどいない環境が確保できます。施設周辺や広場など人が集まる場所などで活用してください。



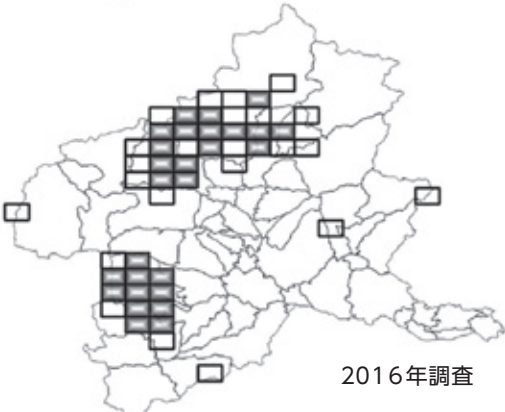
今後について

わずか7年の間でヤマビルの分布が大きく広がりました。その原因として、ニホンジカをはじめとする野生動物の分布拡大が要因と考えられます。赤谷プロジェクトエリア内ではシカをはじめとする生息密度が増えると、ヤマビルの増加も必然と考えられます。薬剤を適切に使って自己防衛や周辺環境の管理を行ってください。

ヤマビルの分布調査



2009年調査



2016年調査

■ 広範囲分布
□ 狭範囲分布

地域と繋がる赤谷プロジェクト



群馬県立自然史博物館

主幹

大森 威宏さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

群馬県立自然史博物館の大森と申します。上信越を中心とした地域の植物相とその保全をテーマに研究しています。第4次尾瀬総合学術調査と群馬県レッドデータブック改訂のための調査、自然史博物館のみなかみ町植物調査が、現在取り組んでいる主なプロジェクトです。博物館では今年の5月19日まで企画展「谷川連峰～絶景といのちが織りなすエコパークの山々」を開催しました。



種類ごとに整理された群馬県立自然史博物館の植物標本

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

みなかみユネスコエコパーク登録申請時にNACS-Jの朱



尾瀬ヶ原・背中アブリ田代にて

宮様と出会い、文献や標本の情報を提供したのが最初でした。それと前後した頃から、南ヶ谷湿地調査のメンバーとも標本同定依頼や情報提供などでつきあいが続いています。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

赤谷プロジェクトエリアは里地・里山を含め、まだまだ調査されていない場所がたくさん残っています。博物館ではみなかみ町の生物や地質の調査を行っていますが、調査とその成果の共有ができればと思います。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

地道なモニタリングと先駆的な取り組み、これからも期待しています。



『いきもの村』でサポートしよう!



赤谷の森では、毎月第一土曜日を「赤谷の日」として様々な取り組みを行っています。コンセプトは、「生物多様性の復元とそこで暮らす人々の調和のとれた生活」。いろんな動植物を調査して保護育成に役立てる。自分たちで育てたお米で酒を造る。私たちが育てた木で家具ができる。そんな自然の恵みで実りある体験を実感してみませんか。

赤谷の森のサポーターはどなたでもいつからでも参加無料です。自然観察指導員やインストラクターも多く活動していて、初めての方には親切丁寧に説明します。新しいサポーターの参加をお待ちしております。

●2019年「赤谷の日」活動予定

8月3日

- ・いきもの村環境整備-歩道整備(赤セ)-里山整備
- ・南ヶ谷湿地調査-チョウ・トンボ調査活動(チーム企画活動)

9月7日

- ・二ホンジカ低密度管理試験(センサーカメラの点検・農の仮設置)
- ・苗畑づくり いきもの村

10月5日

- ・小出保深畔の巨樹観察コース魅力発見
- ・二ホンジカ低密度管理試験(農の設置)

11月2日

- ・南ヶ谷湿地調査-現地確認(チーム企画活動)
- ・二ホンジカ低密度管理試験(農の点検・捕獲)

12月7日

- ・いきもの村環境整備-里山整備
- ・植栽木(桐)ウサギ除けの設置

3月7日

- ・いきもの村環境整備-二セアカシア対策

- * 毎回二ホンジカの動向調査(夜間ライトセンサス)を実施しています。
- * 活動内容には「赤谷の日」翌日に行われる自主的活動も含まれています。
- * 活動の参加には、事前に(公財)日本自然保護協会への申し込みが必要です。
- * 活動内容は都合により変更になることがあります。



活動後のミーティングで和気あいあいと語り合う



イヌワシ調査員の上田さんにモニタリングの状況を教わる

(赤谷森林ふれあい推進センター 玉井 宏)



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H31.2.14

森林・林業技術等交流発表会

関東森林管理局において、ニホンジカ低密度管理のため取り組んでいるニホンジカ誘引捕獲試験の内容などを発表しました。



H31.3.2

赤谷の日林野庁長官視察

牧元林野庁長官が赤谷の日の活動を視察され、ニホンジカ誘引捕獲試験地などの見学を行いました。



H31.4.7

4月赤谷の日「桐苗の植栽」

赤谷の日「いきもの村」の苗畑跡にサポーターと福島県三島町産の桐の苗を植栽しました。



H31.4.28

群馬県立自然史博物館谷川連峰展みなかみDAY

群馬県立自然史博物館のみなかみDAYに参加して、ヒノキ球果ストラップづくりと赤谷プロジェクトのPRを行いました。



H31.4.29

敷島公園まつり

前橋市の敷島公園まつりに参加し、森のかけらストラップづくりと赤谷プロジェクトのPRを行いました。



R1.5.8-30

上毛高原駅ブース設置

上毛高原駅のPRコーナーで、5月8日～5月30日の期間、赤谷プロジェクトのブースを開設しました。



R1.5.11

5月赤谷の日「ニホンジカ誘引試験地センサカメラ等設置」

赤谷の日「ニホンジカ誘引捕獲試験」のため、サポーターとセンサーカメラと誘引資材の鉾塩の設置を行いました。



R1.5.18-19

放送大学面接授業

生物多様性などに関する講義や、赤谷プロジェクト、みなかみBRなどの説明、自然林再生試験地の見学などを行いました。



R1.5.25

赤谷の森自然散策(春) 新緑と民話の世界

みなかみ町と共催で春の旧三国峠の自然観察を満喫した後、猿ヶ京で民話と紙芝居やいちご狩りなどを楽しみました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・出島

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

(公財)日本自然保護協会

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/>

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 小室 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 森内 賀久

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp